

成長はある日突然！劇的にやってくる！

やる気満々、新鮮な気持ちでスタートした4月から1か月が過ぎました。

4月当初は「〇〇なことができるようになりたい」「〇〇な自分になりたい」など、誰もが張り切って毎日を過ごしていたことだと思います。

しかし、あれだけ「ガンバルゾー！」と強く燃えていたはずの心の炎が、気が付いたらすっかり弱火になってしまったという人は少なくないのではないのでしょうか。

このやる気低下の原因の一つに、「頑張ってもなかなか変化しない。」ということが挙げられます。10日、20日と苦労したのに全然成果が出ないのでは、確かにやる気を無くしてしまいそうになりますよね。

実は、頑張ってもなかなか変化しないのは、**脳のしくみ**に理由があります。

例えば、サッカーのリフティング（足でボールをポンポンと蹴り上げて地面に落ちないようにすること）ができるようになりたいと思った



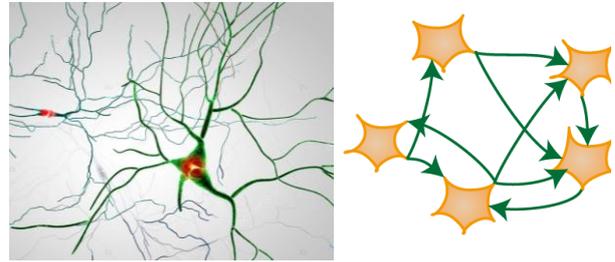
とします。そして、毎日毎日練習したとします。すると、努力の量は右の図のようになんてたまっています。

しかし、できるようなること、つまり、この例でいうと、リフティングの回数です。これはなかなか伸びません。「今日は5回できた！」と思っても、次の日には2回に減ってしまう。その状態が、2週間、3週間と続きます。

すると、誰もが途中で投げ出しくなります。努力が実らないから、嫌になってくるのです。

ところが、この間に、脳の神経細胞はリフティングをするための回路を作ろうと必死で成長しています。神経細胞同士がつながり合い、回路が作られるまでには時間が

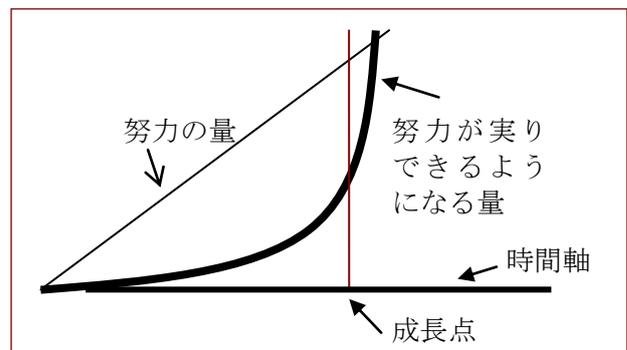
かかるのです。



【脳内の神経細胞は神経突起と呼ばれる糸のようなものを伸ばしてつながり合い、回路を作っていく。】

しかし、一度、回路が完成すると爆発的にできるようになります。100回も200回もできるようになるのです。これが成長点を超えた状態です。

これは、ほとんどの人が経験したことがある話だと思います。例えば、自転車です。乗れない間はぜんぜん乗れません。しかし、回路さえできれば、一生乗れるのです。



多くの人がこのことを知らず、せっかく頑張っていたことを途中で止めてしまいます。もう少しで成長点がやってくるかもしれないなかったのにあきらめてしまうのです。

今、頑張っていることがある人、成長点に到達するのは明日かもしれません。だからこそ、絶対にあきらめないで、努力はとことん続けることが大切なのです。

人間そう簡単に変わるものではありません。挑戦していることが難しければ尚更です。でも、だからこそ成長した時の喜びは大きい！！子ども達にはその喜びをたくさん味わって欲しいと思っています。

もちろん大人も！

そこに生きた証を残す 荒踊り継承教室

昔むかし、古代中国に蒼頡（そうけつ）という人がいたそうです。蒼頡は漢字を発明したと言われる伝説の人物です。



【蒼頡の肖像画】

では彼はどのようにして漢字を生み出したのでしょうか。

蒼頡は湖のほとりを歩いていると、鳥の足跡を見付けました。その時、「そこに鳥はいなくても、足跡で鳥がいたことが分かる。」という事に気がきます。そこで「文字」という概念をひらめいたのだそうです。

蒼頡の肖像画をよく見ると、目が四つあります。きっと、実際に目が四つあったのではなく、それだけ洞察力が優れていたと言うことを表したかったのでしょうか。

さて、このお話で言いたいのは漢字の成り立ちではありません。

今年も荒踊り継承教室が始まりました。国の重要無形民俗文化財を子ども達が受け継ぐ活動が始まったのです。踊りという「無形の文化財」は建物や彫刻のように物体としては存在しません。しかし、何より、そこに生きてきた人々の連帯の証が残っていくのだと思います。飛び立ち姿を消した鳥が足跡を残すように、子ども達もまた、坂本で生まれ、親はもちろん、地域に育てられた証として、荒踊りを身に付け、次の世代に伝えていって欲しいと思います。

今年度、荒踊継承教室の先生をしてくださるのは、西川元春さん、西川博文さん、西川成美さん、甲斐優一さん、吉村優さんの5名の皆さんです。1年間よろしく願いいたします。

バードウォッチング

皆さんもそうだと思いますが、子どもたちに、「カッコウの鳴き声は何？」と聞くと、「カッコウです」と、すぐに答えます。では、「ホトトギスの鳴き声は何？」と聞くと、

「??」という反応です。次に、カッコウの鳴き声を実際に聞いたことがあるかどうかを尋ねると、「聞いたことがない」と答える子どもがほとんどです。なぜ、聞いたことがないカッコウの鳴き声をみんな知っているのか？それは、もうお分かり



ホトトギス

ですよね。カッコウという鳥の名前と、カッコウという鳴き声が同じだからです。また、「かっこう」「静かな湖畔」という唱歌にその鳴き声が登場するからかもしれません。

かわいそうなのは、ホトトギスです。なぜ、かわいそうか？それは、ホトトギスだけは、一区の皆さんをはじめ、子どもたち全員がその鳴き声を耳にしているにもかかわらず、ほとんどがその鳴き声をホトトギスであると認識していないからです。この学校だよりがお手元に届く頃、もしかして「特許許可局（トッキョキョカキョク）」というホトトギスの鳴き声が聞こえているかもしれません。

『目に青葉 山ほととぎす 初鯉』は、江戸時代の俳人 山口素堂の句です。

おまけ 頭の体操

問題 (明治大学附属中野中入試問題)

全部で30問のクイズに挑戦しました。このクイズは1問正解すると+10点、不正解だと-5点。

結果、坂本君は195点を獲得しました。坂本君は何問正解したか答えなさい。

答え 問

※ 答えがお分かりになられたら、学校まで連絡ください。

坂本小学校の合言葉

あ あかるく
し しんけんに
た たくましく

